

# 物見塚遺跡

—県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釧迦堂地区に  
　　における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010年3月

山梨県峠東農務事務所  
甲州市教育委員会  
財山梨文化財研究所

# 物見塚遺跡

—県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業积迦堂地区に  
　　おける農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010年3月

山梨県峠東農務事務所  
甲州市教育委員会  
(財)山梨文化財研究所

## 序

本書は県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業积迦堂地区における農道建設工事に伴って実施された、甲州市と笛吹市にわたって所在する物見塚遺跡の甲州市地内調査区発掘調査報告書であります。

物見塚遺跡は甲府盆地東南部に展開する京戸川扇状地の扇頂部付近に立地しており、甲府盆地内における扇状地の中でも非常に急傾斜の扇状地形となっております。このような平坦地の少ない地形に立地する物見塚遺跡からは、縄文時代早期末～前期初頭、前期後半代の土坑、ピット、溝状遺構が検出されました。本調査区内は土壤改良による天地返しが行われていたこともあって、遺跡の残存状況はあまり良くありませんでしたが、北側に展開する积迦堂遺跡群との関連を示唆するような縄文式土器片も発見されました。中でも自然流路と考えられた溝状遺構SD1は、巨大な礫が流れこんだ状況を確認でき、砂礫層中から発見された土器片からは水流の影響で磨耗した痕跡が見出され、かなりの流水量をほこったであろうことが推定されます。これらは物見塚遺跡の旧景観がどのようなものであったのかを考える材料となり、土器片が流路内に流れ着いていることも、本調査区周辺に遺跡が展開していることを示すものであります。また隣接して実施された笛吹市地内調査区においても縄文時代早期末～前期初頭の竪穴建物跡、土坑、ピットなどが検出していることから、それを相互に補え合えることが示されたといえます。

最後になりましたが、遺跡発掘調査ならびに報告書作成に關係して、多大なるご理解とご協力を賜った関係諸機関および関係者の皆様方に深く感謝申し上げる次第であります。

平成22年3月15日

甲州市教育委員会

教育長 古屋正吾

## 例　　言

- 本書は、山梨県甲州市勝沼町藤井 1064-1 に所在する、物見塚遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業糸迦堂地区における農道建設工事に先立って実施されたもので、山梨県東農務事務所の委託を受けた財團法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。
- 本書の執筆は平野修、編集等は望月秀和と平野が行った。
- 発掘調査および整理作業において一部の業務を以下の機関に委託した。  
基準点・写真測量 テクノプランニング㈱
- 本書に関する記録図面・写真・出土遺物等は、甲州市教育委員会が保管している。
- 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表す次第である。  
山梨県東農務事務所、甲州市教育委員会、山梨県教育委員会、糸迦堂遺跡博物館、株エンドレス、室伏徹、飯島泉、柳原功一、入江俊行、中山千恵、河西 学、秋山圭子、猪股喜彦

## 凡　　例

- 遺構・遺物の縮尺は、原則として各図ごとに示している。
- 第1図で使用している地図は、国土地理院発行『甲府』(1:200,000)を使用している。
- 遺物の押印番号は、連番で付しており、遺物分布図および観察表・本文中写真図版中の番号は対応している。
- 遺物実測図の縮尺は、1/3である。
- 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。  
 石  焼土
- 遺構図版中および上器観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修 1990『新版 標準上色帖』(小山正忠・竹原秀雄)による。

## 本文目次

例　　言	
凡　　例	
I 調査に至る経緯	1
II 調査の経過	2
III 調査の方法と基本層序	5
IV 遺跡の立地環境と周辺遺跡	7
V 発見された遺構と遺物	9
VI まとめ	11
参考文献	11
抄　　録	
奥　　付	

## 表目次

第1表 京戸川周辺の遺跡	8
第2表 SK (土坑・ピット) 一覧表	10
第3表 出土遺物観察表	12

## 図版目次

第1図 調査位置図	4
第2図 調査区グリッド図	5
第3図 基本層序図	6
第4図 周辺の遺跡	8
第5図 調査区全体図	13・14
第6図 遺構配置図	15
第7図 SD 1	16
第8図 SK	17
第9図 出土遺物実測図	18

## 写真図版目次

図版1～7	調査状況写真
図版8	出土遺物写真

## I 調査に至る経緯

山梨県が計画を進めていた県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業积水地区における農道建設工事計画は、笛吹市および甲州市の両市にまたがっており、それぞれ「物見塚遺跡」として埋蔵文化財包蔵地が存在していたため、笛吹市教育委員会と甲州市教育委員会は、事業主である山梨県岐東農務事務所と協議をおこなった結果、果樹の収穫後、県が用地を買収した時点で、遺構の内容および検出面の深度等を把握するための試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、甲州市教育委員会が平成20年12月11日から同15日まで実施した。その結果、縄文式土器の散布や、縄文時代を中心とする竪穴建物跡や土坑などが確認されたことから、甲州市教育委員会は再度調査対象地について岐東農務事務所と協議をおこない、甲州市教育委員会による現場監理のもとで財団法人山梨文化財研究所が発掘調査を実施する体制にて、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなった。山梨県岐東農務事務所、甲州市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所による三者協定書を締結し、甲州市教育委員会は平成20年12月19日付で、山梨県教育委員会に文化財保護法92条に基づく埋蔵文化財発掘の届出を提出し、同年12月24日から発掘調査に着手した。

### 【調査体制】

#### ○調査主体

財団法人 山梨文化財研究所 理事長 沖永莊八

#### ○調査担当者

平野 修（財団法人 山梨文化財研究所 考古第3研究室長）

#### ○発掘調査参加者（五十音順）

大久保一吉、櫛原ゆかり、畠田勝夫、高野まゆみ、田中健二、辻妙子、筒井 聰、

中込 樹、中澤 保、能登瑛志、萩原 忠、望月 明、若林豊美、渡辺嘉子

#### ○整理作業参加者（五十音順）

岩崎満佐子、角屋さえ子、櫛原ゆかり、須田泰美、竜沢みち子、西海真紀、林 紀子、

広瀬悦子、藤原五月、古郡 明、望月秀和

#### ○指導・監督・助言 甲州市教育委員会

## II 調査の経過

平成20(2008)年

12月24日(水) 甲州市地内調査区の重機による表土層除去作業開始。

12月25日(木) 笛吹市地内調査区の重機による表土層除去作業。

12月26日(金) 重機による表土層除去作業すべて終了、凍結防止のため現場養生作業、年内は本日にて調査終了。

平成21(2009)年

1月6日(火) 本調査再開。甲州市地内調査区から着手。人力による遺構確認作業開始。基準点およびグリッド設定。

1月7日(水) SD1新設、同遺構掘り下げ、出土遺物取上、搅乱掘り下げ。

1月8日(木) SD1掘り下げ、同遺構出土遺物個別写真撮影し隨時取上、同遺構調査区北側南面セクション写真撮影および光波測量。

1月9日(金) 降雪のため現場作業休止

1月12日(月) SD1掘り下げ、同遺構出土遺物個別写真撮影し隨時取上、土坑状遺構および搅乱掘り下げ。

1月13日(火) SK1・2・3新設、同遺構セクション写真撮影、SD1南側セクション写真撮影。

1月14日(水) SK1・2・3セクションおよびSD1南側セクション光波測量、SK4新設、同セクション写真撮影および光波測量、SD1遺物出土状況および完掘、SK2・3完掘写真撮影。

1月15日(木) SK5～9新設、同遺構セクション・完掘写真撮影および光波測量、笛吹市地内調査区遺構確認作業および搅乱掘り下げ作業開始。

1月16日(金) 笛吹市地内調査区にて遺構確認作業、SI1新設、同遺構南北セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影および遺物取上、その他土坑状・ピット状・溝状遺構等掘り下げ。

1月19日(月) 甲州市地内調査区の写真測量実施に伴う写真撮影および笛吹市地内調査区内グリッド設定、甲州市地内調査区完掘全景等写真撮影、笛吹市地内調査区内SI2およびSK10～18新設、各遺構セクション写真撮影および光波測量。

1月20日(火) SI1炉跡調査、SI2東西セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影および遺物取上、SK19～23新設

1月21日(水) SI1・2柱穴ピット調査、SI3・4新設、同遺構南北セクション写真撮影および光波測量、SK24～26新設、SK21・22・24セクション写真撮影および光波測量。

1月22日(木) SI1完掘状況写真撮影、SI2炉跡調査、SK25～28完掘写真撮影、SK27～29新設、X4～5Y8～9グリッドエリア内遺構確認精査。

1月23日(金) SI3・4柱穴ピット調査、同ピットセクション光波測量、SK28等完掘写真撮影、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

1月26日(月) SK30～32新設、SI2炉跡調査後完掘写真撮影、SI3・4完掘写真撮影、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

1月27日(火) SK33～41新設およびセクション写真撮影および光波測量、SK30～31遺物出土状況兼完掘状況写真撮影、SD2・3新設。

1月28日(水) SI5新設、SK39等完掘写真撮影、SD2・3南西セクション写真撮影および光波測量。

1月29日(木) SI5東西セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影、炉跡調査、SD4新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量機、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

1月30日(金) SI5柱穴ピット調査および完掘状況写真撮影、SK42～44新設、セクション写真撮影お

および光波測量、S D 2～4 完掘状況写真撮影。

2月2日(月) S I 6～10新設、S K 45～51新設、S I 8・9・S K 47～48東西セクション、S I 8・S K 45～46南北セクション、S I 6・9・S K 51南北セクション写真撮影、S K 42～44完掘状況写真撮影。

2月3日(火) S I 8・9・S K 47～48東西セクション、S I 8・S K 45～46南北セクション、S I 6・9・S K 51南北セクション光波測量、S K 52新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X6～8Y10～12グリッドエリア内遺構確認精査。

2月4日(水) S I 6・7・8・9遺物出土状況写真撮影および遺物取上、S K 53～66新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、S K 45～52完掘状況写真撮影。

2月5日(木) S I 6・7・8・9・10完掘状況写真撮影、S K 67～69新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、S K 53～69完掘状況写真撮影。

2月6日(金) X7～9Y12～15グリッドエリア内遺構確認精査。

2月9日(月) X8～10Y13～15グリッドエリア内遺構確認精査。

2月10日(水) S K 70～78新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X8～10Y13～15グリッドエリア内遺構確認精査。

2月11日(木) S K 70～73・75～78完掘状況写真撮影、S K 79～80新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X8～10Y13～15グリッドエリア内堅穴状遺構落ち込み掘り下げ、調査区北東隅擾乱内にて旧石器時代遺物を確認。

2月12日(月) S I 11新設、同遺構東西南北セクション写真撮影および光波測量、S K 81～85新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

2月13日(火) S I 12・13・14新設、S K 84～94新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

2月16日(水) S I 11・12・13遺物出土状況写真撮影および遺物取上、S K 95～104新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、S K 79・81・83・86～90・104完掘状況写真撮影。

2月17日(木) S I 11・12・13・14完掘状況写真撮影、S I 11炉調査、S K 105～106新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、S K 93・95～98・105完掘状況写真撮影。

2月18日(木) ラジコンヘリによる遺跡景観写真撮影および笛吹市地内調査区写真測量実施、同調査区完掘全景写真撮影、X3～5Y6～8グリッド域にて旧石器時代調査開始。

2月19日(木) S K 107～109新設、同遺構セクション写真撮影および遺物出土状況写真撮影および遺物取上、S I 11・12・S K 106を含む調査区南面セクション光波測量。

2月20日(金) 降雨のため現場作業休止、室内にてデータ整理。

2月23日(月) X8～10Y14～15グリッド域において旧石器時代調査。

2月24日(火) S K 107～109完掘状況写真撮影、X9～10Y14～15グリッド域およびX4～5Y7グリッド域において旧石器時代調査。

2月25日(水) X9～10Y14～15グリッド域をブレ A 地点としX4～5Y7グリッド域をブレ B 地点とする、ブレ A 地点東西南北セクション光波測量。

2月26日(木) ブレ A 地点およびブレ B 地点における遺物出土状況写真撮影および遺物取上、両地点において火山灰分析のための土壤サンプルを採取、S K 110～112新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

2月27日(金) S K 110～112完掘状況写真撮影、ブレ B 地点東西セクション写真撮影および光波測量、機器材搬収作業。

3月以降は、一部出土遺物洗浄作業および本報告書掲載用遺構図版を作成するための光波測量データの整理作業をおこなった。



(国土地理院発行 20万分の1を加工・加筆)  
第1図 調査地位位置図

### III 調査の方法と基本層序

発掘調査は、前述のとおり本調査実施予定地が甲州市と笛吹市の両市にまたがっていることから、「甲州市分調査区」と「笛吹市分調査区」に分けておこなった。重機による表土剥ぎ作業は、甲州市地内調査区から実施した。表土剥ぎ終了後、開発対象地全体を覆うように国土座標にあわせて、南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、5mメッシュを基本とするグリッドを設定した。南西隅を基点として、世界測地系座標X = -39520.000, Y = 19680.000を原点(X=0, Y=0)としている。グリッドの名称は南北方向を南からX 0・X 1・X 2…、東西方向を西からY 0・Y 1・Y 2…とし、南西隅を基点として、X 1 Y 1 グリッドと呼称した。

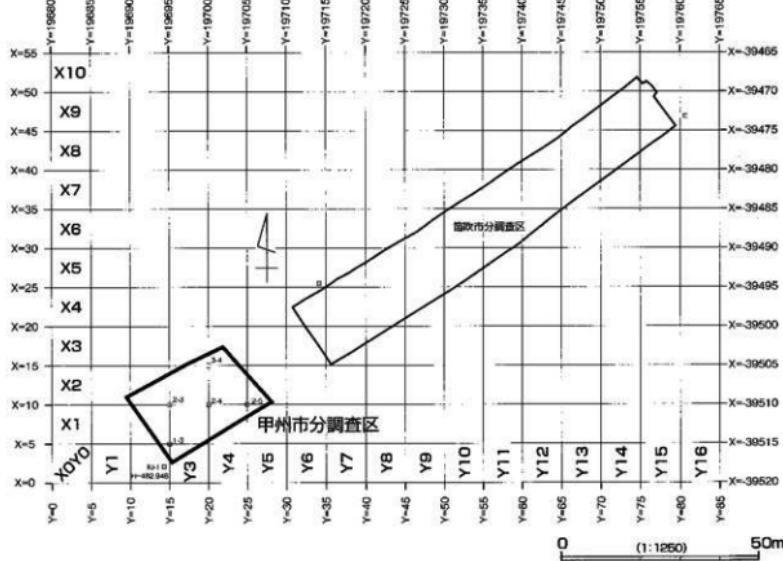
遺構調査については、すべて人力にて覆土を除去し、発生土の排出についても人力でおこなった。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次おこなったが、一部新旧関係が不明瞭な重複した遺構については、同時に調査をおこない、土層観察等によって新旧関係の決定をおこなった。出土した遺物は、原位置が判明するすべての上器片や石器片等の遺物は、光波測量機によって各出土地点ごとにナンバリングして取り上げた。遺構の断面(セクション)測量についても光波測量とし、平面図については、写真測量も併用した。測量図は光波測量は1/20、写真測量は1/40を基本とした。

光波測量に用いた機器およびシステムは以下のとおりである。

- 光波測量機 TOPCON GTS-320F II A
- データコレクタ Panasonic TOUGHBOOK CF-18
- 取り上げ・図化ソフト アイシン精機株式会社製 遺構くんai Ver 1.50

なお、遺構の名称は、以下のような略称を使用した。

- 堅穴建物遺構…S I、溝状遺構…S D、土坑およびピット…S K、不明…S X

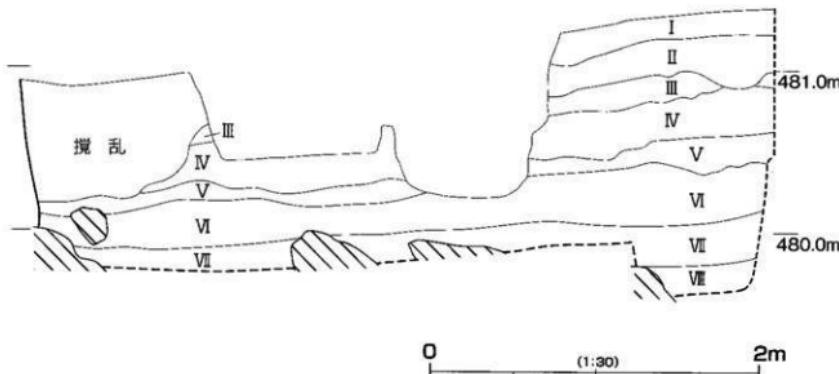


第2図 調査区グリッド図

基本層序については、当該遺跡地が扇状地であるため、均一的な堆積状況ではないことを考慮に入れつつ、旧石器時代の調査の際に笛吹市地内調査区東端部（プレ A 地点）での状況を示す。プレ A 地点では、現表から約 18 m の深度まで掘り下げ、I 層から VII 層まで分層した。なお、笛吹市・甲州市両市内の調査区とともに、土壤改良に伴う天地返しや、石の切り出し等で広範に擾乱を受けており、特に甲州市地内調査区では、表土層直下で基盤層の一つである黄褐色砂質土が露出したことから、ここでは、層序を示すことができない。土層色調標記については、『新版標準土色帳』13 版（農林省水産技術会議事務所監修 小山正忠・竹原秀雄編・著 1993）に準拠している。

#### 〈基本層序説明〉

- 第 I 層 表土層（整地層・擾乱等も含む）遺物包含層、小礫、炭化物等含む、約 15 cm ほど残存
- 第 II 層 黒褐色砂質土（10YR2/2）縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む。
- 第 III 層 褐色砂質土（10YR4/6）縄文時代遺構の掘り込み層位、黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む。
- 第 IV 層 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒、1 mm 大スコリアを含む。
- 第 V 層 黄褐色砂質土（10YR5/6）暗褐色土ブロック、花崗岩粒、1 ~ 2 mm 大スコリアを含む。炭化物粒微量含む。
- 第 VI 層 明黄褐色砂質土（10YR6/8）2 ~ 5 mm 大スコリア、花崗岩粒（第 V 層よりやや少ない）含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩を含む。
- 第 VII 層 オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/6）小礫や多く含む、花崗岩粒、5 mm 大スコリア極少含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩を含む。
- 第 VIII 層 オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/4）小礫や多く含む、花崗岩粒含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩を含む。



第3図 基本層序図

## IV 遺跡の立地環境と周辺遺跡

物見塚遺跡は、甲府盆地東南部、御坂山地の北麓、笛吹市一宮町と甲州市勝沼町にまたがって分布する京戸川扇状地の扇頂部近くに立地している。遺跡の南側には蜂城山(738m)、南東側には茶臼山、大沢山などがそびえ立ち、遺跡地の標高は480m前後を測る。京戸川扇状地は、北を田草川、南側を京戸川および御手洗川によって囲まれる矩形の扇状地で、甲府盆地に発達する扇状地中では、最も傾斜の大きい急傾斜扇状地である。扇状地の上半部は、巨礫を含む土石流堆積物による土石流凸地であり、あたかも動物の背のように突出した高まりが幾重にも重なった状態で分布しており、地形の微起伏が著しい。まとまった平坦面も少なく、遺跡もこうした突出した高まりの地形面に立地している。扇頂部の水分付近には、諏訪池と呼ばれる湧水池があり、その池にまつわる雨乞いの風習が現在でも残っているといふ。

京戸川扇状地には数多くの遺跡が分布している。旧石器時代の遺跡では、駿迦堂遺跡群の塚越A地区があり、ナイフ形石器、スクレーパー、ブレード、ドリルなどが出土している。縄文時代早期の遺跡では、駿迦堂遺跡群塚越北AおよびB地区で、神ノ木台式期、三口神平地区で下古井式期の集落跡が発見されている。縄文時代前期の遺跡では、駿迦堂遺跡群塚越北A地区で諸磯a式期・b式期の集落が発見されている。縄文時代中期の遺跡では、駿迦堂遺跡群で中期初頭五領ヶ台式期から後葉の曾利式期の大規模集落跡が発見されている。特筆すべきは、1,116個体に及ぶ土偶が出土していることで、これら土偶は国の重要文化財に指定されている。縄文時代後期・晚期の遺跡は少ないが、駿迦堂遺跡群塚越北B地区で後期初頭の堅穴建物跡が検出されている。

弥生時代の遺跡は、京戸川扇状地でもその下半部の泥流舌状地に主に分布している。旧東八代郡一宮町の中尾条里遺跡(亀沢遺跡)で後期の水田遺構が発見されている。出村遺跡では後期の方形周溝墓が1基検出されており、山梨県内で初めて発見された周溝墓として学史的にも重要な遺跡である。

古墳時代の遺跡では、扇頂部から扇尖部にかけて千米寺・石古墳群という群集墳が分布している。一宮町誌(1977)の段階では総数36基が確認されおり、その後の調査分析でかつては68基の古墳が存在していたと確認されている。発掘調査された事例は少ないが、大塚古墳と駿迦堂遺跡群塚越北A地区で発見された駿迦堂1号墳が発掘調査されており、7世紀後半代の所産とされている。

奈良・平安時代の遺跡も京戸川扇状地では調査例が少ない。その中でも駿迦堂遺跡群駿迦堂地区で鉄製人形や須恵器壺・蓋などが出土した小堅穴遺構は、祭祀遺構として注目される。同遺跡群野呂原地区で皇朝鏡である隆平永宝を伴う9世紀後半代の堅穴建物跡が1軒のみ検出されている。天神堂遺跡では、8世紀~9世紀代の堅穴建物跡と掘立柱建物跡が発見されている。方形周溝墓が発見された出村遺跡でも、9~10世紀代の堅穴建物跡が検出されている。

中世以降の遺跡では、岩崎館跡が京戸川扇状地扇端部に位置し、鎌北線に沿って坂戸川が南流し急崖を形成している。昭和50年に勝沼バイパス建設に伴い実施された発掘調査では、15世紀初頭とされる古瀬戸が出土している。また蜂城山は山城、茶臼山は烽火台とされている。



第4図 周辺の遺跡（国土地理院発行1/25,000「石和」使用）1/20,000

第1表 京戸川周辺の遺跡

1.物見塚	2.日向林	3.山遺塚	4.銀塚A	5.銀塚B	6.塙越北A
7.三口神平	8.野呂原	9.末新田	10.西藤塚	11.大榮地	12.雁屋敷
13.岩崎熊跡	14.御所畠	15.天神堂	16.上野	17.白川・寺平	18.鉢塙古墳
19.藤井田	20.松本	21.馬込	22.宮田	23.地蔵久保I	24.地蔵久保2
25.妻神	26.木本	27.釣迦堂	28.若宮	29.南屋敷	30.西田
31.西田北	32.十二社	33.田村	34.桜坪	35.柳田	36.早川氏屋敷
37.中尾条里北宮海道	38.桜坪	40.穴地蔵	41.中尾条里神ノ木	42.中尾条里	43.塙田
44.卯ノ木田	45.辻氏墨敷	46.竹之後	47.小泉	48.稚泉寺	49.荒輪
50.古町屋	51.富士塚	52.宮之上	53.三本権	54.若古墳群	55.古婦毛
56.亥塙	57.上三口神	58.徐山田	59.蜂塙山	60.東泉寺跡	

## V 発見された遺構と遺物

甲州市分の調査区の実質的調査面積は 140.3 m<sup>2</sup>で、発見された遺構は、SD (溝状遺構) 1 基と、SK (土坑・ピット) 9 基である。

### 1. SD (溝状遺構)

#### SD 1 (第7図)

(位置) X1 ~ 2・Y1 ~ 4 グリッドに位置している。

(規模等) 上端の幅員は最大で約 4 m を測り、確認面からの深さは最大で 1.1 m を測り、深さは一定している。溝の断面形は底面付近がやや段をもつような鍋形を呈するが、上端にいくに従いラッパ状に広がっている。

(重複・検出状況) SK 2・3・5 と重複するが、新旧関係は不明。北東方向から南西方向に細かく蛇行しながら流下している。検出された範囲内の中央部付近と南西端付近には、土石流に伴う人頭大以上の礫が集中しており、砂礫の堆積も顕著であることから、自然流路の一部である可能性は極めて高い。

本遺構は、土層観察に伴う砂礫層の存在から少なくとも 3 段階の変遷を辿ることができる。第 1 段階の砂礫層は、底面上約 30 cm の厚さで大型礫を含む砂礫が堆積している。第 2 段階の砂礫層は第 4 層中でみられ、厚さは 10 cm 前後を測る。第 3 段階の砂礫層は第 2 層中でみられ、厚さは数 cm 程度のものである。出土している大半の礫は第 5 ~ 9 層中から出土しており、出土した土器類も同層中から大半が出土している。

(出土遺物) 出土遺物は、縄文時代早期末から前期初頭、前期後葉、中期、土師器片までの時期差をもつ上器群が出土しており、その大半が小片で、流勢によるローリング痕跡が著しい。よって出土した土器群は検出された周辺から流れ込んだものではなく、上流域から流下してきた可能性が高い。

(時期) 自然流路の性格上、幅広い時期の上器群が出土していることから、所属時期の特定は極めて難しい。よって出土土器の中で一番新しい土師器の存在から、9 ~ 10 世紀以降の所産と考えておきたい。

### 2. SK (土坑・ピット) (第8図)

土坑は前述のとおり総計 9 基検出されている。これら土坑は、出土遺物が皆無であるものがほとんどで、唯一、SK 6 から打製石斧状石器が出土したに過ぎず、その時期や性格等を特定するのは非常に困難な状況にある。

#### SK 1

X0・Y2・3 グリッドに位置し、その半分以上が調査区外にかかっている。平面形態は不明で、現存長軸規模は推定で約 1 m、確認面からの深さは約 60 cm を測る。出土遺物はなし。

#### SK 2

X1・Y3 グリッドに位置し、SK 3・5 と重複し、SK 5 を切り込んで構築。SK 3 との新旧関係は不明。楕円形を呈し、現存長軸規模は 12 m、短軸 11 m を測り、確認面からの深さは最大で約 43 cm を測る。出土遺物はなし。

#### SK 3

X1・Y3 グリッドに位置し、SK 2・5 と重複し、SK 5 を切り込んで構築。SK 2 との新旧関係は不明。楕円形を呈し、長軸規模は 90 cm、短軸は 84 cm を測る。出土遺物はなし。

#### SK 4

X0・Y3 グリッドに位置し、擾乱坑によって大半を欠失している。現存長軸規模は 70 cm、確認面

からの深さは約 20 cm を測る。出土遺物はなし。

#### SK 5

X1・Y3 グリッドに位置し、SK 2・3 と重複し、SK 2・3 に切り込まれている。平面形態および規模ともに不明。確認面からの深さは約 12 cm を測る。出土遺物はなし。

#### SK 6

X2・Y2 グリッドに位置し、不整橈円形を呈し、長軸規模は 1.15 m、短軸は 0.96 m を測る。確認面からの深さは、最大で約 15 cm を測る。出土遺物は、打製石斧状石器が 1 点出土している。

#### SK 7

X2・Y3 グリッドに位置し、SK 8・9 と重複する。SK 8 を切り込んで構築。隅丸長方形を呈し、長軸規模は 1.2 m、短軸は 1.0 m を測り、確認面からの深さは最大で 35 cm を測る。底面に長軸 0.70 m、短軸 0.55 m の規模を測る橈円形を呈する掘りかたを有する。出土遺物はなし。

#### SK 8

X2・Y3 グリッドに位置し、SK 7・9 と重複する。SK 7 に切り込まれ、SK 9 を切り込んで構築。橈円形を呈し、現存長軸規模は 75 cm、確認面からの深さは 15 cm を測る。出土遺物はなし。

#### SK 9

X2・Y3 グリッドに位置し、SK 8 に切り込まれている。橈円形を呈し、現存長軸規模は 1.2 m、短軸 1.1 m を測り、確認面からの深さは最大で約 43 cm を測る。出土遺物はなし。

第 2 表 SK (土坑・ピット) 一覧表

SKNo.	構図番号	位置 (Grid)	重複	平面形態 ( )=推定	長 軸(m) ( )=推定値 [ ]=現存値	短 軸(m) ( )=推定値 [ ]=現存値	深さ(m)	備考
SK1	第8回	X0Y2・3	なし	—	(1.00)	—	0.60	
SK2	第8回	X1Y3・4	SK3・5、SD1	不正橈円形	1.20	1.10	0.43	
SK3	第8回	X1Y3	SK2・5	(不正橈円形)	0.94	0.80	0.20	
SK4	第8回	X0Y3	なし	—	[0.70]	—	0.20	
SK5	第8回	X1Y3	SK2・3、SD1	—	—	—	0.12	
SK6	第8回	X2Y2・3	なし	不正橈円形	1.15	0.96	0.15	打製石斧状石器
SK7	第8回	X2Y3	SK8	隅丸長方形	1.20	1.00	0.35	
SK8	第8回	X2Y3	SK7・9	(橈円形)	[0.75]	(0.65)	0.15	
SK9	第8回	X2Y3	SK8	橈円形	[0.70]	0.52	0.14	

## VI まとめ

本調査区では、調査の結果、縄文時代早期末から前期後半代の所産と思われる土坑、ピット、溝状遺構が検出されている。各遺構の検出総数は、土坑、ピット（SK）9基、溝状遺構（SD）1条である。本調査区は土壤改良による天地返しが著しく、遺物包含層はほとんど削平された状況で、遺構の遺存状況も極めて悪い。出土した遺物の総量は、幅34cm、長さ495cm、深さ26cmのプラスチックコンテナにして、1箱の約1/4程度で非常に少ない。

土坑・ピットからの遺物の出土はほとんどなく、唯一、SK9から打製石斧が1点出土しているに過ぎない。

一方、溝状遺構であるSD1は、自然流路と思われ、細かに蛇行しながら南東から北西方向に流下している。流路内には巨礫を含む、かなりの流水量があったことを物語る砂礫層が認められる。

溝の規模は、幅約3~4m、確認面からの深さは約1m前後を測る。堆積土の状況から、少なくとも3時期にわたる変遷が認められ、最下層部の砂礫層からは縄文時代前期後半代を中心とする土器片が出土している他、縄文時代早期末から前期初頭・中期の土器片もみられる。また、同層位中からは網片ながら9~10世紀の所産と思われる土師器片も出土している。

出土した土器は、いずれも水流による摩耗が著しく、本調査区内でも同時期の遺構が認められず、上流域には口向林遺跡などの縄文時代前期の遺跡が存在することから、上流域からの流れ込みの可能性が高い。本流路の所属時期については、溝という性格上その年代決定が難しく、出土遺物の年代およびその出土状態から、縄文式土器とはほぼ同じ層位から出土している土師器片の存在から、現段階では9~10世紀以降の所産を考えざるを得ない。

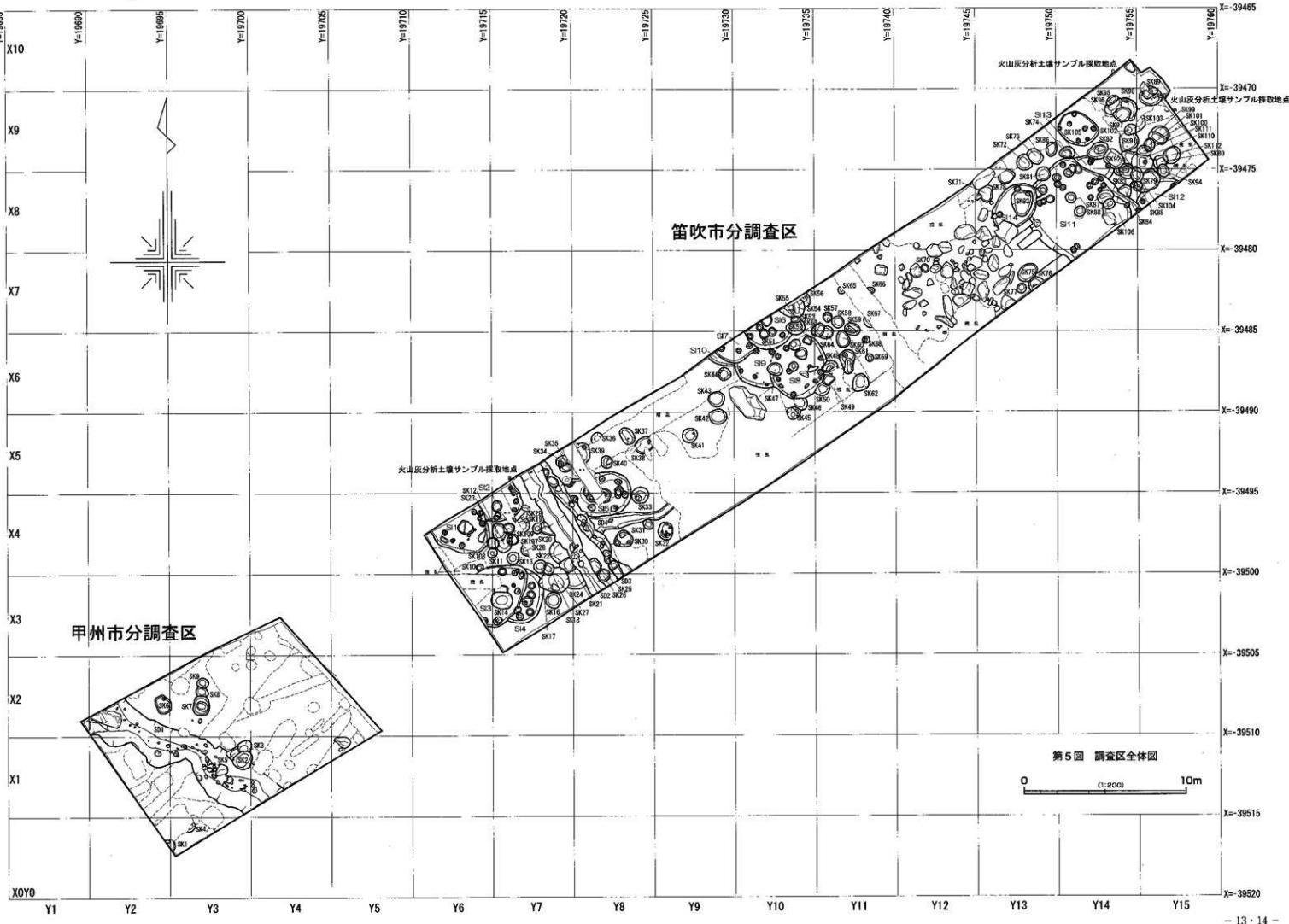
最後に、極寒の中、現場作業に直接携わっていただいた作業スタッフの皆さんをはじめ、本調査全般にわたりご指導、ご教示、ご協力をいただいた関係諸機関、各位には心から感謝申し上げるとともに、今回の物見塚遺跡の発掘調査成果が、今後の山梨県における考古学研究進展の一助となれば望外なる喜びである。

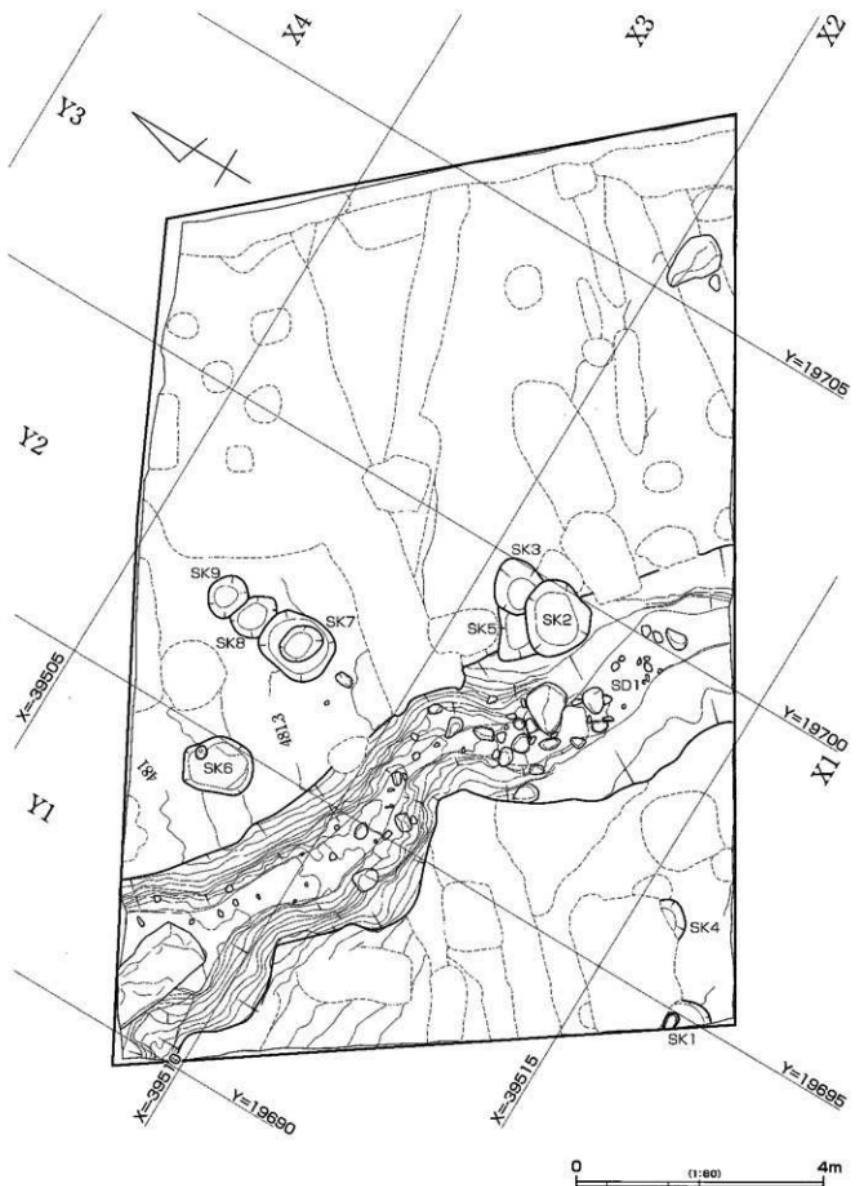
### 参考文献

- 小野正文他 1986「駿遊堂Ⅰ」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第17集  
駿遊堂遺跡博物館建設促進期成同盟会 1983「駿遊堂遺跡周辺分布調査報告書」  
瀬田正明 1992「'92第4回特別展 縄文世界の形成」駿遊堂遺跡博物館  
山梨県 1999「山梨県史 資料編2 原始・古代2」

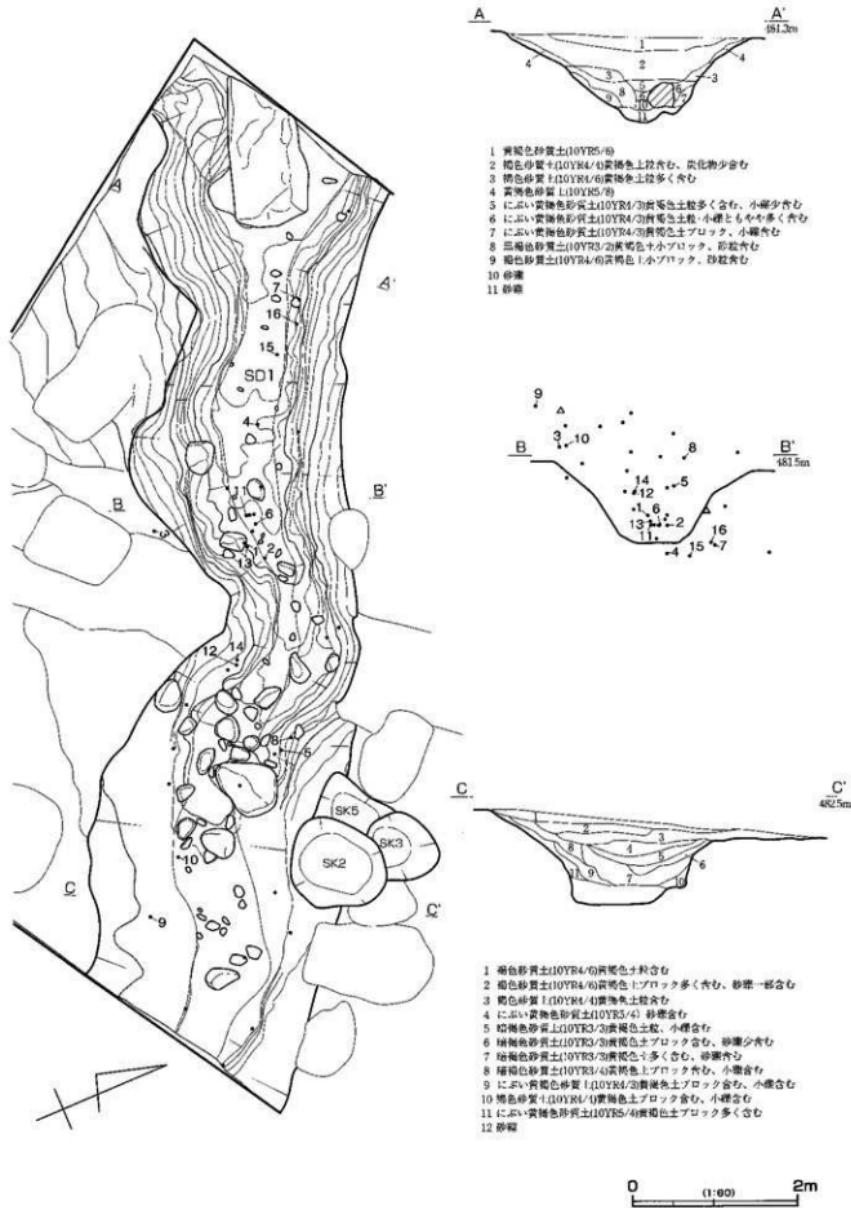
第3表 出土遺物観察表

遺物 番号	出土 地點	種類	断面	部位・形態	整列・指手抜法(外)	調査技術(内)	色調(外・内)	地土	注記	高周 率番 号	備考
1	S81 開文	円錐	網目	ナゲ	ナゲ	(外)褐色(火) 黑褐色	小中粒(白・茶・黑色粒子)、燒 跡、小砾石(火灰に含む)	MOS81-98	12	草～前開、下火灰式焼け	
2	S81 開文	円錐	口縁部	下轍竹管による溝状創痕記 号(火灰)	ナゲ	網目	若(火・黑色粒子、青灰)	MOS81-28	11		
3	S81 開文	円錐	頂部	内折沈済文(下轍竹管 火) ?、ナゲ	ナゲ	にぶい・黄褐色	小中粒(黑・白色粒子、露光)	MOS81-8	1		
4	S81 開文	円錐	底部	圓文、波浪	ナゲ	にぶい・黄褐色	小中粒(火燒白色粒子、白色粒 子、露光)	MOS81-55	15	滑移手あり	
5	S81 開文	圓錐	底部	無記文	ナゲ	にぶい・黄褐色	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS81-26	7		
6	S81 開文	圓錐	底部	下轍竹管による字形沈済	ナゲ	にぶい・黄褐色	小中粒(白・黑色粒子、露光、小 砾石(火灰に含む))	MOS81-31	13		
7	S81 開文	深鉢	網目	火迹、ナゲ	ナゲ	網目	小中粒(白・茶・赤色粒子、露 光)	MOS81-6	3		
8	S81 開文	深鉢	底部	深文	ナゲ	火燒	小中粒(火燒白色粒子、黑色粒 子、露光)	MOS81-19	6		
9	S81 開文	深鉢	網目	火迹	ナゲ	火燒	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS81-22	8		
10	S81 開文	深鉢	底部	深文	ナゲ	火燒	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS81-1	4		
11	S81 開文	深鉢	網目	半轍竹管による凹痕	ナゲ	網目	小中粒(火燒白色粒子、白・赤色 粒子、露光)	MOS81-24	14		
12	S81 開文	深鉢	網目	ナゲ	ナゲ	無	白(黑色粒子、火燒白色粒子、黑 色粒子、露光)	MOS81-25	9		
13	S81 開文	深鉢	網目	網文	ナゲ	にぶい・黄褐色	小中粒(火燒白色粒子、黑色粒 子)	MOS81-17	16		
14	S81 開文	深鉢	網目	深掘文(火)	ナゲ	にぶい・黄褐色	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS81-56	10		
15	S81 開文	深鉢	網目	カキ貝?	ナゲ	網目	白(黑色粒子)	MOS81-14	6	船模痕	
16	S81 上開	深鉢	網目	カキ貝ナゲ	ナゲ	無	小中粒(火・黑色粒子)	MOS81-7	3		
17	S85 石	-	-	厚約1.0cm、 直径約3.0cm	-	直曲面	石材(砂岩)	MOS8-6	27		
18	XIV3 暗文	底鉢	網目	深文、下轍竹管による凹 痕、ナゲ	ナゲ	網目	小中粒(火燒白色粒子、黑色粒 子、露光)	MOS813グ	17		
19	XIV3 暗文	底鉢	網目	網文	ナゲ	網目	白(火燒白色粒子、黑色粒子、露 光)	MOS813グ	18		
20	XIV2 暗文	底鉢	網目	網文	ナゲ	野麥糊	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS812グ	20		
21	XIV2 暗文	底鉢	網目	網文、深掘文(火)	ナゲ	網目糊	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS812グ	19		
22	XIV2 暗文	底鉢	網目	網文	ナゲ	にぶい・塊	小中粒(白・黑色粒子、露光)	MOS812グ	21		
23	XIV3 暗文	深鉢	網目	網文、下轍竹管による凹 痕、ナゲ	ナゲ	無	小中粒(火燒白色粒子、黑色粒 子、露光)	MOS813グ	23		
24	XIV3 暗文	底鉢	網目	高須文?	ナゲ	網目	白(白・シ・火燒白色粒子、露光)	MOS813グ	22		





第6図 遺構配置図

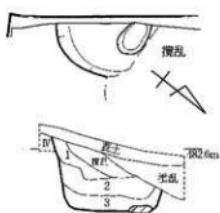


第7図 SD 1

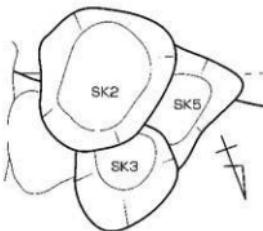
SK1

SK2・5

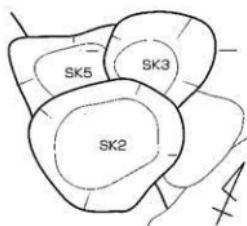
SK3



- 1 黄褐色砂質土 (10YR4/6) 花崗岩骨材、  
黄褐色粘合物  
2 黄褐色砂質土 (10YR3/3) 花崗岩骨材、  
黄褐色土小ブロック、スコリヤ含む  
3 黄褐色砂質土 (10YR3/3) 小花崗岩骨材、  
黄褐色土小ブロック、スコリヤ含む  
IV 矿物化砂質土 (10YR3/3)  
黄褐色土、灰褐色土ブロック、  
花崗岩骨材、灰褐色骨材、1mm大スコリヤ含む



- I にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土粒、花崗岩骨材含む  
2 黄褐色砂質土 (10YR4/6) 花崗岩骨材、小石、黄褐色土小ブロック含む  
3 黄褐色砂質土 (10YR4/6) 黄褐色土粒、ブロック含む

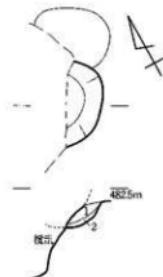


- J 黄褐色砂質土 (10YR4/6)  
黄褐色土粒、花崗岩骨材含む  
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4)

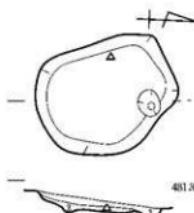
SK4

SK6

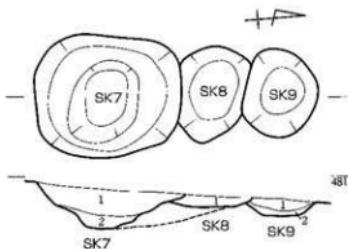
SK7・8・9



- 1 黄色砂質土 (10YR4/6)  
黄褐色土粒、花崗岩骨材含む  
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
黄褐色土小ブロック含む



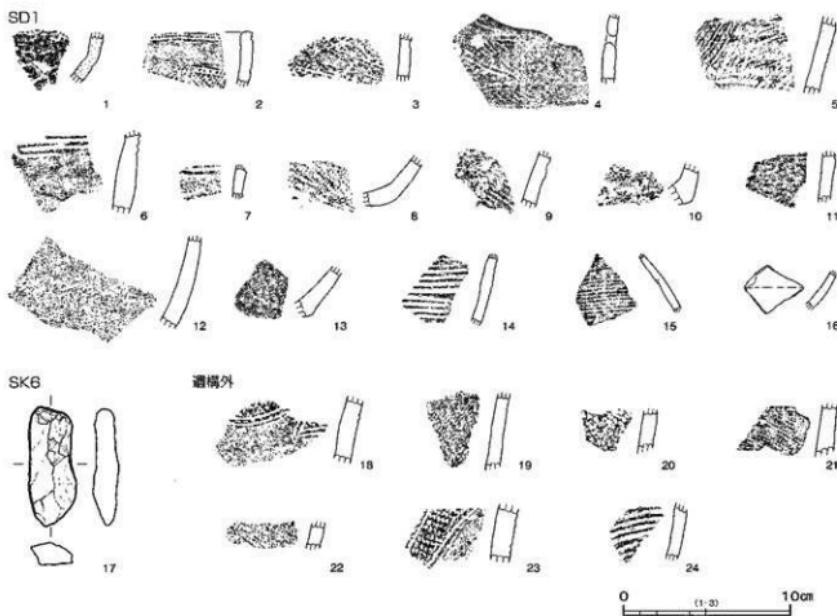
- 1 黄色砂質土 (10YR4/6)  
黄褐色土粒、花崗岩骨材含む  
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
黄褐色土小ブロック含む



- <SK7>  
1 黄色砂質土 (10YR4/6) 黄褐色土粒、花崗岩骨材含む  
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土小ブロック含む  
<SK8>  
1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) 花崗岩骨材含む  
<SK9>  
1 黄色砂質土 (10YR4/6) 黄褐色土粒、花崗岩骨材含む  
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土小ブロック含む

0 (1:40) 1m

第8図 SK



第9図 出土遺物実測図



遺跡遠景（南から）



遺跡遠景（西から）

図版 2



物見塚遺跡全景（合成、上が北）



物見塚遺跡調査区全景（合成、上が北）



SD1 完掘（南西から）



SD1 完掘（北東から）

図版 4



SD1 北側南面セクション



SD1 南側セクション



SD1 内巨石出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SD1 遺物出土状況



SK1 完掘



SK2・3 完掘



SK4 完掘



SK5 完掘



SD6 完掘、遺物出土状況

図版6



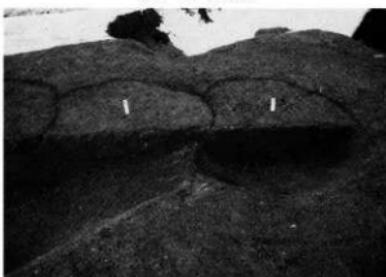
SK6 出土遺物



SK7・8・9 完掘



SK7・8 セクション



SK9 セクション



重機による表土剥ぎ作業風景



ポールによる写真測量実施風景



調査前状況



調査風景

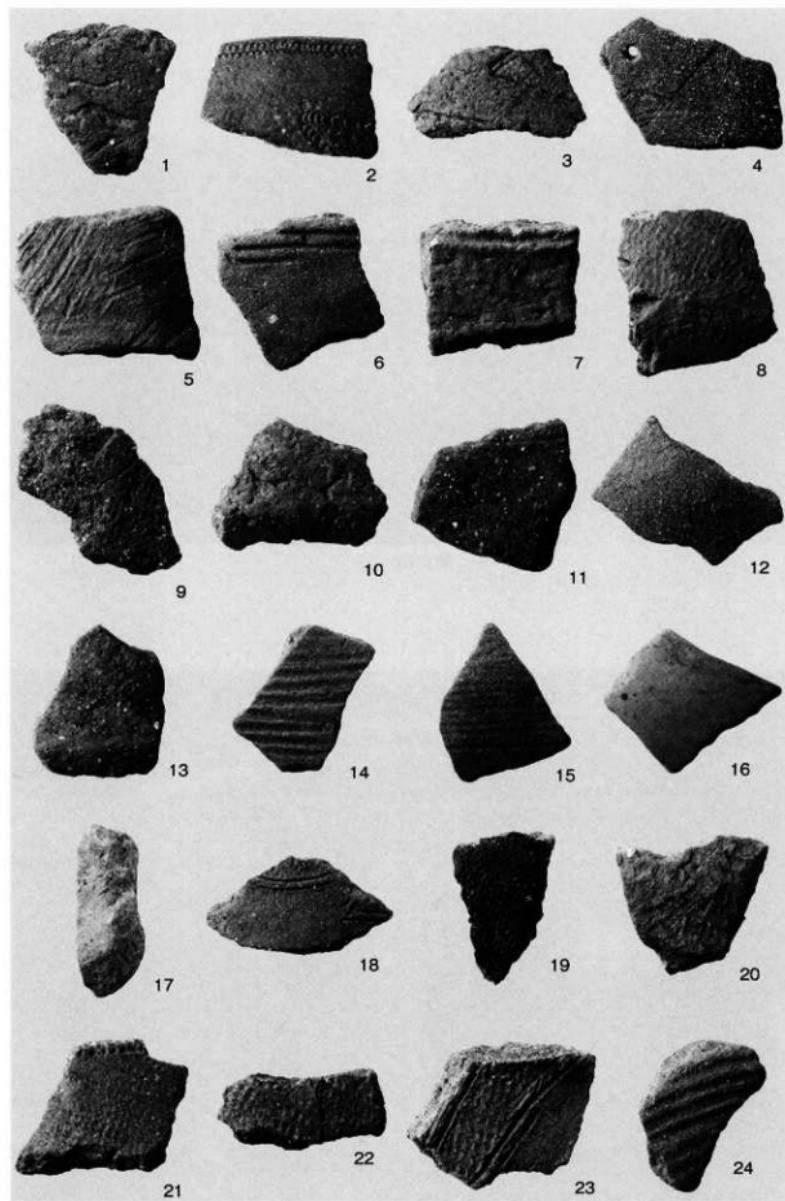


調査風景（1）



調査風景（2）

図版 8



出土遺物 ※番号は遺物挿図番号と対応

## 報告書抄録

ふりがな	ものみづかいせき
書名	物見塚遺跡
副書名	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業駅迎堂地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第4集
編著者名	平野修、望月秀和
編集機関	財団法人 山梨文化財研究所
所在地	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 Tel055-263-6441
発行年月日	平成22(2010)年3月15日

ふりがな	ものみづかいせき
所収遺跡名	物見塚遺跡
ふりがな	やまなしけん こうしゅう しかつぬまちょう ふじい
所在地	山梨県甲州市勝沼町藤井1064-1
市町村コード	市町村：19213
北緯	35°38'36.9246"
東経	138°43'02.3488"
調査期間	20081224～20090227
調査面積	140.1m <sup>2</sup>
調査原因	農道建設
種別	集落跡
主な時代	縄文時代早期末～前期初頭、前期後半、中期
主な遺構	土坑・溝状遺構（自然流路）
主な遺物	縄文式土器
特記事項	

甲州市文化財調査報告書 第4集

物見塚遺跡

県営農林漁業用揮発油災財源身替農道整備事業駿河地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成22年（2010）3月15日

編 集 埼玉山梨文化財研究所

発 行 山梨県駿東農務事務所・甲州市教育委員会  
埼玉山梨文化財研究所

印 刷 ブラビューサービス

